

第2630地区 多治見西ロータリークラブ

WEEKLY REPORT



「険道運荷駄図」

文化勲章受章者 荒川豊蔵氏描



地域を育み
大陸をつなぐ

2010～2011年度 国際ロータリーのテーマ

例会日 毎週木曜日

事務局 多治見市新町 1丁目 23番地

TEL 0572-25-5100 FAX 0572-25-5101

n-rc@joy.ocn.ne.jp

<http://tajiminishi.jimdo.com/>

会長 伊藤正雄 会報 松浦毅

幹事 大澤大二 堀義紀

会長テーマ

家族愛 ファミリーなロータリー 愛と夢と展望

第2179例会 2011年3月3日(木)

本日のプログラム

- 点 鐘
- 国家斉唱 君が代
- ロータリーソング 奉仕の理想
四つのテスト
- 会長挨拶
- 新会員入会式
- 新会員紹介 大岩順子さん
- ロータリーバッジ授与
- 新会員挨拶 加藤真左子さん
- 出席・スマイル報告
- 委員会報告
- 理事会報告・幹事報告
- 卓話者紹介 親睦委員長 山田正史君
- 卓 話 東鉄観光株式会社 西尾忠彦様
「トラベルエージェントの素顔」
- 点 鐘

歓迎！ 新会員紹介

本日より新しい仲間が誕生しました。



よろしくお願ひします。

加藤真左子さん

勤務先 中部プロパン株式会社

専務取締役

生年月日 昭和29年1月14日

会社住所 多治見市笠原町3843-3

西尾忠彦様紹介

愛知大学法経学部経済学科卒業

1982年4月 名鉄観光サービス(株)入社

1996年9月 東鉄観光(株)海外担当課長

現在 中央支店カウンター担当責任者

来週のお知らせ

3月10日(木) 振替休会

11日(金) 3市6RC 親睦合同例会

3月の例会行事

3日	卓話 東鉄観光(株)西尾忠彦様 「トラベルエージェントの素顔」
10日	振替休会
11日	3市6RC合同例会 場所：(財)モラロジー研究所
17日	卓話 服部賢治君 「今年の税制改正」
24日	卓話 担当：会長・幹事
31日	お祝い例会

3月3日(木) 第46期クラブアッセンブリー

場所：松正 時間：午後6時

3月19日(土) 2011年会長エレクト研修セミナー

場所：四日市都ホテル

3月20日(日)～22日(火) 苗栗RC表敬訪問

先週の記録

◆ 出席報告 (免除者 5名 内出席者 2名)

出席者	欠席者	出席率
27名	6名	81.81%

◆ スマイル報告

投函者 18名 金額 18,000円

会長挨拶 こんにちは、明日2月25日は私にとりまして何回目かの結婚記念日であり、女房殿の何回目かの誕生日であります。よくもここまで来と思います。女房殿に感謝！！感謝！！でございます。

先週、多治見ロータリークラブの「よろず相談」の相談者として、石垣先生、上野先生と共に不詳私も参加してきました。大変盛況でした。私の相談は不動産関係で「境界確認等」の相談に応じてきました。2月の初めにも可児市の「無料不動産相談」にも参加しましたが、最近の顕著な事は、バブル時に購入したゴルフ会員権、別荘分譲地等の不要不急商品を購入した方が最近の不況感のある経済情勢からか、あるいは購入者が高齢化し、息子達も「管理費用」のかかる将来の相続財産の引き継ぎを否定するところから、特に別荘地の更地は、「ただ」でもいいから処分したい人が多くなってきたことと、最近の強化された農地法の改正も含めて、相続した農地の低額処分を望む人が多くなってきたことでした。少子高齢化、人口減少基調、不景気、全ての社会現象に影響してくるものだとつくづく相談に依るたびに思いました。(抜粋)

ロータリー財団研修セミナーに参加して

第46期ロータリー財団委員長 松本 昇

2月27日に「岐阜都ホテル」において「国際ロータリー第2630地区2011～12年度ロータリー財団研修セミナー」が開催されました。会議はR1第2ゾーン R財団地域コーディネーター補佐 竹腰兼壽PG、R財団委員会委員長 渡邊忠彦様、他140名の参加で行われました。今回は財団の寄付についての話もありましたが、2011年国際協議会におけるポリオ体験談の報告を致します。

私のポリオ体験 ジェニー・ホートン

ポリオ撲滅キャンペーンの一環として、私がインドを訪れたのは2000年でした。そこでこの致命的な病から子供たちを守るためにポリオワクチンを与えながら、もう一方でワクチンを受けられなかったために障害を負ってしまった人たちと出会うという体験をしました。私はそれまで、あれほど残酷な骨格の変形を見たことがありませんでした。3本の手足で這う子供、足が使いものにならない子供、社会に見捨てられ物乞いを強られる子供などを目の当たりにしたのです。彼らの障害は防げるものだったと思うと、彼らを直視するのが辛く、心は引き裂かれる思いでした。このことで、私がどれだけ心を動かされたかを知ったプルショタマンパストガバナーの勧めで、私はもっと幅広い活動に参加するようになりました。ポリオ撲滅予防接種キャンプで活動した時の事、私はポリオのせいで靴が履けず、膝を抑えなければ歩けなかった少女に出会いました。彼女にキャリパー(添え木)と靴を付けてあげた後で、どう思うか聞いてみたところ、彼女はこう言ったのです。「これで今日から教科書を持って学校に行けるんです」と。その答えに返す言葉もありませんでした。また、カムラン君という男の子は、父親が息子へのポリオワクチン投与を拒否したため、4歳でポリオの苦しみを背負い、その後車椅子が必要となる障害を抱えてしまいました。父親は自分の判断を悔いており、その痛みが癒えることはありません。現在14歳のカムラン君は、パイロットになることが夢だと言い、自分の悲しみを両親に知られないために、夜密かに涙を流すのだと教えてくれました。このような状況を目の当たりにする度に私も涙を流しながら現場を後にしたものです。